

焙烙(ほうろく)

江戸時代

鹿兒島城下の屋敷跡から出土した素焼きの平たく浅い土鍋です。火にかけて塩や茶、ごまなどをいれるのに使われました。短い取っ手の付いたフライパンのようですね。

(県立埋蔵文化財センター)



鹿兒島市・浜町遺跡

(随時掲載)